

研究プロジェクト名

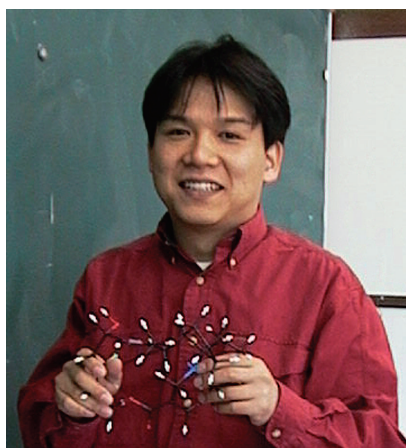
天然有機分子の集積化による機能発現



Design and Synthesis of Clustered Natural Organic Compounds

理学研究科・助教授

有 本 博 一
Hirokazu Arimoto



ありもと ひろかず プロフィール

1988年 慶應義塾大学理工学部 卒業
1990年 同大学大学院前期博士課程 修了
1995年 博士(理学)(慶應義塾大学)

研究経歴

1990年 旭硝子株式会社中央研究所
1994年 静岡大学理学部 助手
1994年 静岡大学理学部 助教授
2001年～ 名古屋大学大学院理学研究科 助教授

研究分野

天然物化学、生物有機化学。
1) 孤立性カリウムイオンの産卵行動に用いられる麻痺性物質の探索
2) 生物活性天然有機化合物の合成法開拓
3) 生物活性マルチバレントポリマーの設計

受賞歴、レクチャーシップなど

2001年 有機合成化学協会 奨励賞
2000年 同協会 塩野義製薬 研究企画賞

ワードを導入した点にあります。

これまでに抗生物質バンコマイシンをポリマー上に密に結合した「集積型」抗菌物質を合成しました。院内感染の原因として問題となるバンコマイシン耐性腸球菌に抗菌性を示すなど有望な初期成果が得られています。

集積化のメリットのうち最も重要な点は生体内受容体結合能の向上です。この特徴を活かして、多彩な生物活性物質をデザインしていきます。

②今後の抱負

天然物化学における醍醐味は、実際に野外に出て生物現象をみながら化学する点にあります。名古屋大学は伝統的に本分野に強く、中核的拠点として役割を果たしてきました。諸先生方の御指導を仰ぎながら、私なりの新しい色付けを加えていきたいと考えています。

③本院への期待

私の研究は、確立された研究パターンから離れた萌芽的なものであることから、関連異分野の発想や手法を積極的に導入したいと考えています。この点で、学内有数の能力をもつ研究者集団である高等研究院に参画し、同じ場所を共有することは強い刺激となります。

また、文部科学省学術調査官(併任)の業務もあり、フィールドや実験室にいる時間がとれなくなっていましたので、流動教官就任を機会に研究時間をあみ出したいと思っています。

理学研究科の有本です。2001年秋に静岡大学助教授から着任しました。

高等研究院において研究を進める機会を与えていただき光榮に思っています。

①本院における研究プロジェクトの簡単な紹介

天然有機化合物は、生物活性物質の宝庫とし

て広く研究されています。

新規物質の探索、全合成という従来型の研究を補完する意味で、既知天然物の有効利用にむけた新規機能物質設計が期待されています。

私のプロジェクトの特色は、天然物化学をベースとした生物活性物質研究に「集積」というキー

